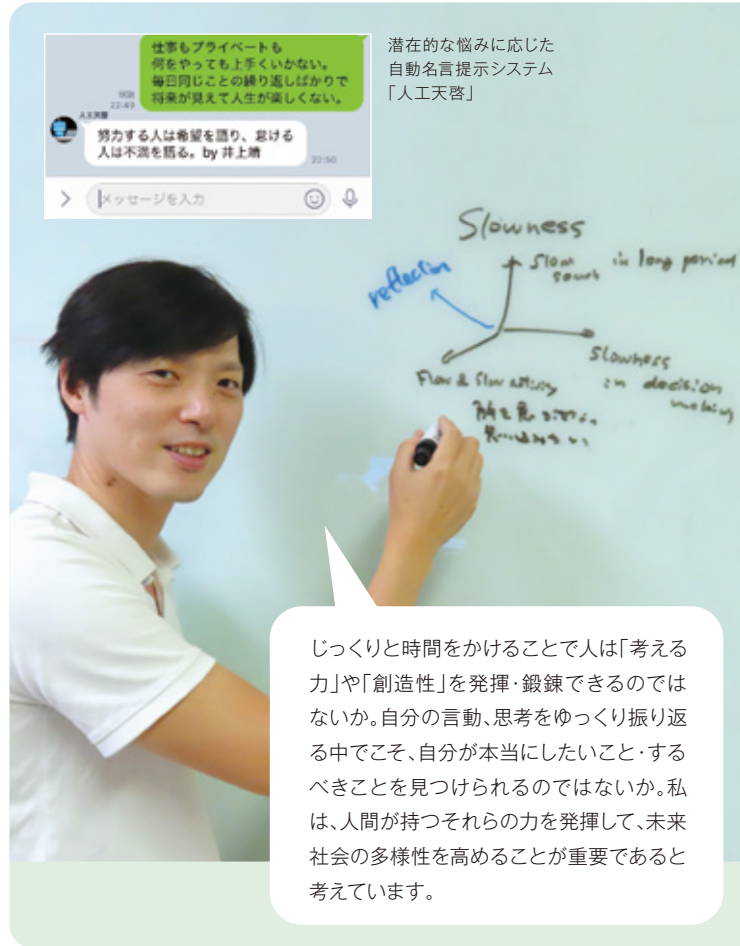


研究最前線 静岡大学の若手研究者たち

芸術文化の継承と発展、
人類の「知」に貢献する



潜在的な悩みに応じた
自動名言提示システム
「人工天啓」

仕事もプライベートも
何をやっても上手くいかない。
毎日同じことの繰り返しばかりで
何が見えて人生が楽しくない。

努力する人は希望を語り、怠ける
人は不満を語る。 by 井上雄

ゆっくりと時間をかけることで人は「考える力」や「創造性」を発揮・鍛錬できるのではないか。自分の言動、思考をゆっくり振り返る中でこそ、自分が本当にしたいこと・するべきことを見つげられるのではないか。私は、人間が持つそれらの力を発揮して、未来社会の多様性を高めることが重要であると考えています。

今日、AIなど情報技術の画期的な進歩によって、様々な情報処理が楽にかつ効率よく行えるようになり、情報処理にかかっていた時間やエネルギーが、他のことに使えるようになりました。しかし、余分な時間やエネルギーが生まれたことによって、クリエイティブなことをする機会が増えただろうか。例えばスマホなどの変換機能に依存し、漢字が書けなくなってしまうなど、情報技術の進歩がもたらす人間の創造力への影響が近年問題視されています。

私の研究室では、「Slow Informatics」というコンセプトのもと、情報技術による自動化・効率化が進む社会において、逆に作業をゆっくりさせることで人々に気づきを与え、じっくりと情報処理を行う機会を提供する情報インタラクション技術や方法論について研究開発を行っています。

山本 祐輔
YAMAMOTO Yusuke
情報学部 行動情報学科 准教授



教員ウェブサイト

情報技術と人間の創造力の バランスとは - Slow Informatics -

山本 祐輔
YAMAMOTO Yusuke
情報学部 行動情報学科 准教授



教員ウェブサイト



私たちは普段、アクターの行動の結果しか見聞きできませんが、実際の紛争や国際裁判の判決などを分析すると、国際社会におけるアクターが、どのような動機で行動し、どのような理屈で自身を正当化し、対立点をどう克服してきたか、実に巧みに行動していることがわかります。未知なる発見に遭遇し、そのたびに国際法の面白さを実感しています。

様々な条約・条文や
紛争事例を分析しています

国際社会においては、これまで国家が主要なアクターでしたが、現在では、テロ組織などの非国家主体が飛躍的に行動領域を拡大させています。世界に目を向けてみれば、武装集団が関与しない紛争はほとんどありません。国際法では、国家間で武力行使されることを前提としています。現在では国家と非国家主体との間の紛争が多く、法の枠組みと現実の間でずれが生じています。

そこで私は、条約や条文の成立過程、実際に生じた紛争事例、国際裁判の判決などを分析し、国際法上、非国際的武力紛争にどのようなルールが適用されるのか、法的にどう解決できるか、非国際的武力紛争を規律する国際法(特に武力紛争法)のあり方を解明する研究に取り組んでいます。

川岸 伸
KAWAGISHI Shin
人文社会科学部 法学部 准教授



教員ウェブサイト

非国際的武力紛争を規律する 武力紛争法

川岸 伸
KAWAGISHI Shin
人文社会科学部 法学部 准教授



教員ウェブサイト

音は鳴った瞬間から消えてしまうものですが、私たちは楽譜を頼りに何百年も前の音楽も楽しむことができます。しかし、楽譜はあくまで音楽を記号化しただけのものであり、そこから音楽を生み出すには、楽譜に書き表すことができない演奏者の「解釈」が不可欠です。

私は、楽譜に書かれざる演奏解釈がどのように伝承・形成されるのかを、レッスンを分析することで研究しています。レッスンでは、音や身振り、言葉を用いて、音楽解釈や演奏法が口頭伝承されており、レッスンを分析することで、記譜されない演奏習慣や伝統の実態、それらが口頭伝承される過程を知ることができます。師の演奏解釈を頭(知識)と身体(技能)の両方で会得していくプロセスは暗黙知とのつながりもあり、広がりのある研究分野だと感じています。

クラシック音楽における 演奏解釈の形成と伝承

後藤 友香理
GOTO Yukari
教育学部 音楽教育専修 講師



教員ウェブサイト



楽譜への書き込みも
分析につながります

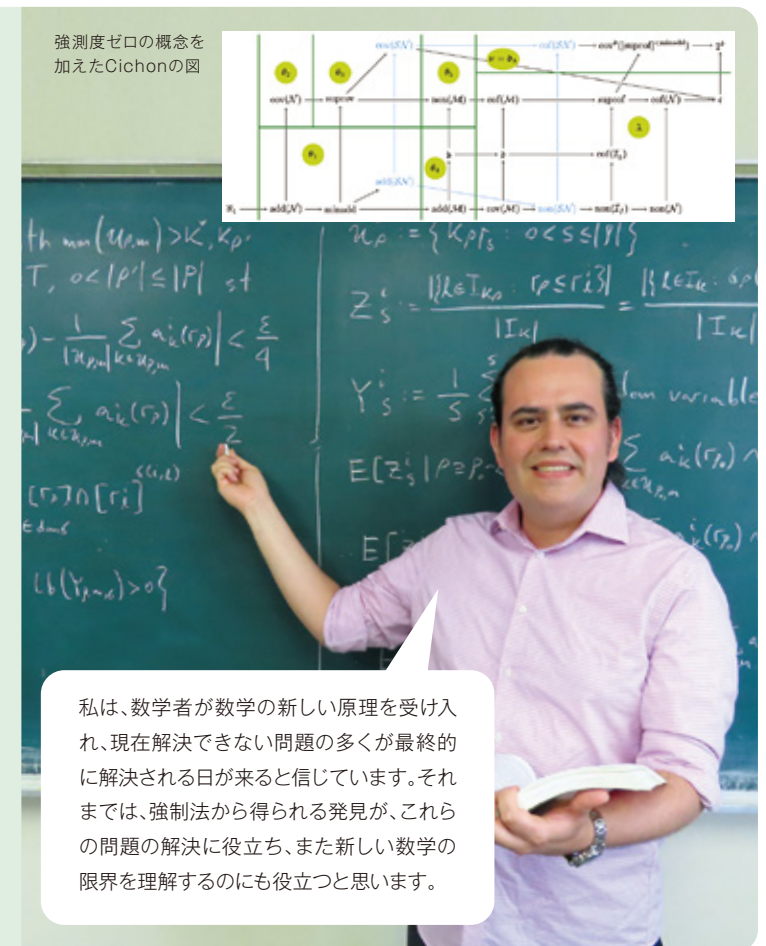
自律的な音楽とは違い、演奏は「いつ・どこで・誰と・どのように」聴くかによってその都度変わります。私は演奏活動を通じて、音楽がどのように地域文化の発展に貢献できるのか、新しい表現や解釈の可能性を模索しています。みなさんもぜひ耳でだけでなく空間ごと音楽を体感してください。

強制法理論と実数直線上の 組合せ論

メヒア ディエゴ
MEJIA Diego
理学部 創造理学コース 准教授



教員ウェブサイト



強度ゼロの概念を加えたCichonの図

私は、数学者が数学の新しい原理を受け入れ、現在解決できない問題の多くが最終的に解決される日が来ると信じています。それまでは、強制法から得られる発見が、これらの問題の解決に役立ち、また新しい数学の限界を理解するのに役立つと思います。

数学的な疑問が生じたとき、数学者はそれが正しいかどうかを確認しますが、20世紀に創造された「強制法理論」などにより、数学(数学的宇宙)の中では真偽を決定できない数学的命題が発見されました。これにより科学の中で最も厳密な数学でさえ限界があり、その主要な対象の一つ「実数直線」にも影響されることが明らかになりました。

強制法理論とは、自然数や実数のような全ての数学的対象が存在する抽象的な宇宙を拡張し、別の数学的現実を見ることを可能にする手法です。拡張された宇宙の中に新たな実数が現れることで、実数直線の組合せ論がこの拡張の中で操作できるようになります。

私は、主に「強制法理論」と「強制法が実数直線の組合せ論に与える影響」について研究し、これらの組合せ論的概念を理解するために、新しい強制法手段の創造を目指しています。